

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	安心して暮らせる環境づくり (1)難民支援活動及び啓発 (2)尼崎市在住の外国人支援および交流 (3)災害時の多言語対応(非常時における社会的弱者への支援)			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	兵庫県立尼崎小田高等学校		
	活動 グループ名	国際探求「members of a society」	参加学生 等人数	16 人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	国際探求学科		
	責任者氏名	出田 享佑	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	尼崎市国際交流協会		
	代表者氏名	理事 古川剛	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標に、社会的弱者である外国人への支援が行き届くように、啓発及び交流を行っていく。また、日常においても、困った時に頼ることができる人が少ない外国人を支援、及び交流する会を企画し、安心して暮らすことができる環境づくりに貢献する。 (1)難民が生み出される原因を解消、また難民を積極的に受け入れることを最終目標にするが、今年度の目標として、実際に難民の方と交流し、高校生としてできることを考えることと、難民問題を広く知ってもらうために、イベントを開催して啓発・および人を繋ぐ。 (2)尼崎市在住の外国人と交流することで、彼らが日本語を学んだり、困った時に頼れる人の繋がりを持ったりすることができるように活動する。 (3)自然災害時に、外国人居住者(大人も子ども)に適切な情報および支援が届くよう、多言語対応の促進に取り組む。			
活動内容及び 実績、評価	(活動内容・発表会) 活動内容: 別紙報告 発表会: 令和5年12月16日(尼崎市立小田南生涯学習プラザ) 令和6年1月31日、2月3日(本校で実施) (評価) ①学生 「外国人＝英語が通じる」という凝り固まった考えがあったということに気づいた。英語より、やさしい日本語の方が通じる外国人の方が尼崎市には多いという発見があった。この発見以後は、先入観や思い込みにとらわれることなく、様々なことを想定して、活動に取り組むようになった。小田南生涯学習プラザでの報告会で、尼崎市長から、これまで取り組んできたことに対して評価していただき、「地域の役に立てている」、「自分たち高校生にもできることがある」などの自己有用感を感じ、自信を得ることに繋がった。様々な年代の方々と接することで、コミュニケーション能力も高まった。 ②市民活動団体の活動者 高校生が地域の外国人と交流したり、協働したりすることにより、少しでも外国人の方々にとって尼崎が住みやすい街になっていくのではないかと。これからも尼崎市に住む外国人が			

	増えていくと思われるので、このような地道な活動が地域のためになっていくと考える。 ③指導教員の視点を踏まえて、次の項目について評価・分析したものを掲載してください。 この取り組みを通して、当初想定した以上に、地域の方々との繋がりが広がっていった。それぞれ違う場所で活動していた高校生と地域の人々が繋がることで、大きなイベントが実施できたり、次年度以降の新たなイベントの企画案が出てきたりしており、この取り組みのインパクトの大きさを感じている。生徒たちと活動の振り返りをする中で、「外国人が身近な存在になった」、「外国人の問題は自分たちの問題でもある」などと感じ、これからの活動や英語学習への取り組みにもポジティブな変化が感じ取れている。自分とは異なる立場に立って、また日本語に堪能でないという立場に立って、物事を考える習慣がついてきたように思う。尼崎市内の唯一の国際科を有する学校ということで、外国人と地域を繋ぐハブとなれるように今後も活動を続けていきたい。
--	--

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします

国際探求「members of a society」の活動報告書

①やさしい日本語入門講座（参加：尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班）

7月18日に尼崎小田高校で、小田地域課と連携し、日本語教師の金子智子さんを講師とし、やさしい日本語講座を実施した。外国人向けのイベントを実施するにあたり、やさしい日本語がどのようなものを学び、外国人の方々とコミュニケーションを取る際に、役立つ講座となった。やさしい日本語講座の後には、FFF(イベント②)で、外国人の方々に浴衣を着てもらえるように、着付けの方法を学んだ。



②FFF(Futsal Food Festival)（参加：尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班）

7月23日にあまがさきキューズモール3Fレンガのひろばで、小田地域課や地域の防災士の方々と外国人向けのイベントを開催し、フットサル・防災食・浴衣の着付け・防災クイズなどを外国人の方々と楽しんだ。あまり多くの外国人の方々に来ていただくことの難しさを感じたイベントでもあった。



③第52回尼崎市民まつり（参加：尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班・難民支援班）

10月1日に中央中学校での市民まつりに参加した。難民支援班は、川西市在住のウクライナからの避難民家族を招待し、まつりを案内して楽しんだり、インタビューを行ったりした。外国人支援班は、日本と他国を比較しながら、ジェスチャークイズを行い、文化間の違いを市民の方々に知ってもらった。多言語対応班は、防災クイズを行ったり、防災に関するアンケートを実施したりした。ウクライナ避難民家族への聞き取りより、「週末の過ごし方が分からな



い、困っている」ということが分かった。次は、この困りごとを解決するために、イベントを計画することになった。

④RAFIQ(難民支援団体)からの講演会及びワークショップ（参加:難民支援班）

11月8日に本校で人権教育学習の一環で、難民の方を取り巻く状況などについての講演を聞いた。講演会后、難民支援班は、改正入館難民法について詳しく話を聞いたり、自分たちの探究活動についてアドバイスを頂いたりした。



⑤尼崎エエトコどこ！（参加:尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班）

11月26日に阪神尼崎駅周辺で、外国人の方と尼崎のインスタ映えをする場所を探しながら、交流するというイベントに参加した。写真を撮りながら、防災や日常生活の困り事などについてのアンケートを実施した。



⑥日本語読み書き教室でのアンケート（参加:尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班）

11月24日に尼崎市立小田南生涯学習プラザでの読み書き教室に参加し、外国人の方の日常の困り事や防災についてのアンケートを実施した。



⑦あまおだ冬まつり（参加:難民支援班）

12月16日に尼崎市立小田南生涯学習プラザでのあまおだ冬まつりで、前出のウクライナからの避難民家族や日本語読み書き教室で交流したウクライナ人留学生、野菜農家の方々と一緒にウクライナの伝統料理であるボルシチを作った。





⑧SDGs報告会（参加：尼崎市在住の外国人支援班・災害時の多言語対応班・難民支援班）

1月28日に尼崎市立小田南生涯学習プラザでの SDGs 報告会に参加し、尼崎市長や市民の方々に自分たちが取り組んできた探究活動報告を行った。尼崎市長から高評価を頂いた。

